

鉄道遺構研究分科会令和7年度の活動報告～16年目の活動～

和田 浩

1. はじめに

「第5回 全国鉄道資源活性化サミット in 岩国」が令和7年10月4,5日に山口県岩国市で開催され、旧三江線では昨年の「目の字形ラーメン橋（川本町）」に続き9月24日に「宇都井高架橋（邑南町）」が土木学会の選奨土木遺産に認定され、11月22日に認定証授与式が邑南町三江線鉄道公園宇都井駅公園で行われた。

平成22年より始まった鉄道遺構研究分科会（以下、本分科会と称す）の活動は今年で16年目となる。今年度も地域の方々や関係機関と連携した活動を行うことができた。

本報告は今福線と旧三江線の主な活動について行うものである。

2. 令和7年度の活動内容

(1) 今福線

①第5回 全国鉄道資源活性化サミット in 岩国への参加

サミットへは本分科会、浜田市、連絡協議会より参加し、参加団体との交流を図った。

②現地取材

今福線遺構冊子制作のため、ライターのやまもと氏、五庵氏、フォトグラファーの中野氏と現地取材を行い、今福線の歴史や遺構の建設、構造等について説明を行った。

③今福線を活かす連絡協議会のホームページ（“幻の広浜鉄道”今福線）の開設

今福線の遺構や活動等に関する情報の発信拠点としてホームページの開設を進めた。

(2) 旧三江線

①宇都井高架橋の選奨土木遺産の認定

選奨土木遺産認定に向けて、関係者へこれまでの調査研究した本橋の構造や特徴等の解説を行った。また、11月22日の選奨土木遺産認定証授与式への準備と参加を行った。

②JR九州への現地視察（JR篠栗線、JR鹿児島本線）

宇都井高架橋と同じ特殊ジョイントを有する壁式ラーメン構造のJR篠栗線の壁式高架橋群6橋と、出羽川橋りょうと同構造で、我が国最初のPCポステン下路桁橋であったJR鹿児島本線石堂川橋の撤去跡や建設時のルートと残された構造物を視察した。

③「旧三江線『陰陽連絡100年の夢』プロジェクト調査及び実現プラン策定事業」への参加

中国運輸局が実施主体となり、将来にわたって国内外から旅行者を惹きつけ、継続的な来訪や消費額向上につながる地域・日本のレガシーとなる観光資源の形成を促すことを目的とする事業で、本分科会は昨年に続き事業化に向けて、専門家として現地調査の支援や指導、エンジニアツーリズム（ガイド役）等へ参加した。

④旧三江南線区間（口羽～三次間）の現地踏査

口羽～三次間の撤去中や撤去後の遺構の状況について確認を行った。

(3) 関係機関・団体との連携

①浜田市、今福線を活かす連絡協議会との連携

②土木学会中国支部との連携、松江工業高等専門学校との交流

③邑南町・NPO法人江の川鐵道との連携、川本町・川本町観光協会との交流

今年度の活動内容を表 2.1.1 に示す。

表 2.1.1 分科会活動内容一覧表

年月日	活動内容	備 考
5月10日	「鉄道遺構研究分科会」初回打合せ(活動内容と日程調整) ・R6年度の活動及びこれまでの活動内容 ①今福線②旧三江線 ・R7年度の活動内容 今福線：マップ更新の準備、遺構冊子の制作、遺構の3次元データ化、 第5回全国鉄道遺産活性化サミットin岩国（仮称）への参加 今福線を活かす連絡協議会との連携 旧三江線：選奨土木遺産認定への準備と協力、江の川鐵道との連携、 福岡県JR篠栗線視察、東京大学丸山教授との現地調査へ準備と協力 ・樋口先生より2025年土木学会中国支部発表論文の配布 ・その他:岸根氏より旧三江線や今福線に関する資料情報 ・村上氏より山陰道に関する話題提供	参加人数 10名 河野、嘉藤、酒井、 佐々木孝、渡辺、 辰巳、和田 WEB参加 樋口、永田、岸根、 佐々木慶
6月18日	「今福線」「今福線を活かす連絡協議会 総会」への参加 ・令和6年度活動報告、収支決算、監査報告 ・令和7年度活動計画の予定 ・役員の改選 ・正会員、賛助会員名簿の確認	参加人数 1名 和田 正会員より9名
6月27日 ～ 6月29日	「旧三江線」 JR九州への現地視察(JR篠栗線、JR鹿児島本線) ・宇都井高架橋と同じ特殊ジョイントが採用された壁式ラーメン構造のJR篠栗線の 壁式高架橋群6橋を視察。 ・出羽川橋りょうと同構造で、我が国最初のPCボルステン下路桁橋であるJR鹿児島本 線石堂川橋の撤去跡を散策し、建設時のルートと残された構造物を視察。	参加人数 7名 樋口、石田、和田、 永田、岸根、酒井、 辰巳、楳野
9月1日 9月2日	「旧三江線」「旧三江線からはじまるエンジニアツーリズム」の現地踏査同行と キックオフシンポジウムに参加（3月6日～7日視察ツアーに続く現地踏査） ・現地踏査案内：日本大学：岩城教授、石橋研究員、立命館アジア太平洋大学： 山下教授、関東学院大学：湯浅教授、愛知工業大学：川口准教授、東京大学大学院： 丸山教授及び学生3名に同行し現地を案内。 ・シンポジウム：岩城教授より講演『三江線に学ぶインフラを長持ちさせるための 秘訣』、森田氏（NP0江の川鐵道）をモダレーターとしてパネルディスカッション 『エンジニアツーリズムが拓く 江の川流域の未来』	参加人数 7名 石田、木佐、岸根、 酒井、辰巳、肥後、 和田 シンポジウム参加者
10月4日 10月5日	「第5回全国鉄道資源活性化サミットin岩国」への参加 ”鉄道資源を観光振興や地域活性に活用する”として山口県岩国市にて開催 ・10/4:サミット(活動事例発表、パネルディスカッション(YouTuber西園寺氏、 ZAKI氏、鉄印女王森川氏)、大会宣言、交流会) ・10/5:エクスカーション(とことこトレイン、岩日北線探検)	参加人数 7名 嘉藤、河野、永田、 佐々木孝、岸根、渡辺、 和田 正会員他より7名
10月29日 ～ 12月19日 (予定)	「旧三江線」 建設年代毎のコンクリート構造物のコア採取の現地指導 ・JR西日本への許可申請の提出と承認後のコア採取の現地指導 採取したコアは、東京大学丸山教授にてCO2吸着試験などが行われるとともに、 日本大学石橋研究員ほかも研究論文に活用される予定。	参加人数 3名 岸根、酒井、辰巳 コア採取作業 2名
11月12日	「旧三江線」 エンジニアツーリズムの一環企画：ガイド養成講座にて講演 ・地域振興を目的にエンジニアを対象としたツアー企画へのガイド養成講座の開催。 このうち、旧三江線の歴史と構造物に関する講座を本研究分科会がこれまでの研究 を題材に講演。	参加人数 2名 岸根、酒井
11月22日	『関係人口』で読み解く島根の地域再生視察会-日本技術士会中国本部」への参加 「人口減少社会と地域再生」をテーマに、現地見学会を開催 ・今福線：アーチ橋や橋脚群、トンネルについて和田が説明 ・旧三江線：宇都井高架橋の構造や特殊ジョイントを有する橋脚と上部工の挙動に ついて模型を使って酒井氏、岸根氏が説明	参加人数 6名 篠田、武田、岸根、 渡辺、酒井、和田 中国本部他より12名
11月22日 11月23日	「旧三江線」 選奨土木遺産認定書授与式への参加と他の遺構の現地調査 ・11月22日：宇都井高架橋・駅の選奨土木遺産認定証授与式の準備と参列 INAKAイルミの開催に合わせて授与式が行われた。 ・11月23日：旧三江南線区間（口羽～三次間）の撤去構造物踏査 撤去中、撤去後の遺構の状況確認を行った。	参加人数 6名 樋口、佐々木孝、 渡辺、辰巳、岸根、 酒井、和田
12月8日	「今福線」 遺構冊子制作の現地取材 ・遺構冊子制作のため、ライターのやまもと氏、五庵氏、フォトグラファーの中野 氏と一緒に現地案内を行い、今福線の歴史や遺構の建設、構造等について説明を行つ た。	参加人数 4名 河野、佐々木孝、 岸根、和田 連絡協議会1名、 やまもと氏他より2名
12月21日 (予定)	「今福線・旧三江線」「いわみ国際シンポジウム」への参加と発表 ・鉄道と観光による地域振興をテーマに島根県立大学にて開催 今福線と旧三江線において、遺構の説明やそれらを利活用して活動をしている関 係機関との連携や活動について紹介を行った。	参加人数 1名 和田 連絡協議会より参加

※参加人数は島根県技術士会からの人数を示す

3. 分科会活動

3.1 第5回 全国鉄道資源活性化サミット in 岩国への参加

“鉄道資源を観光振興や地域活性に活用する”として山口県岩国市で第5回サミットが開催された。

これまでの未成線、廃線に加え、地域を支えているローカル線も含めて、鉄道資源として観光振興や地域活性化のお宝として利用することで、地域創生に貢献できるよう名称が「鉄道資源活性化サミット」となつた。

開催日：令和7年10月4日(土)…サミット

5日(日)…エクスカーション

開催場所：山口県岩国市、島根県吉賀町

(錦川清流線・岩日北線・とことこトレイン)

参加者：嘉藤、河野、佐々木孝、永田、岸根、渡辺、和田(以上、本分科会)

連絡協議会や浜田市からの参加者7名(合計14名)

1日目：活動事例発表やパネルディスカッション(13:00～16:00)、交流会(18:00～20:00)

【活動事例発表】

〈今福線〉 島根県浜田市 今福線を活かす連絡協議会(岩崎会長が発表)

〈油須原線〉 福岡県赤村 赤村トロッコ

〈阿佐海岸鉄道 阿佐東線 DMV:Dual·Mode·Vehicle〉 徳島県海陽町

〈くま川鉄道 湯前線〉 災害からの復活物語として 熊本県人吉市

〈岩日北線 錦川清流線〉 山口県岩国市 錦川鉄道



写真 3.1.1 今福線発表



写真 3.1.2 阿佐海岸鉄道発表



写真 3.1.3 錦川鉄道発表

【パネルディスカッション】

『錦川清流線・とことこトレインをバズらせる作戦会議』をテーマに、フリーランサーの田代氏をMCとして、鉄道系 YouTuber の西園寺氏と ZAKI 氏、鉄印女王の森川あやこ氏、錦川鉄道の村野社長によるパネルディスカッションがあつた。「今後、どのように広めていくか」という課題に対して以下の提案があつた。

- ・SNSを利用し会社と個人(裏事情等)の両方による情報発信。



写真 3.1.4 パネルディスカッション

- ・インスタ映えを意識したスポット作り。
- ・プロジェクトマッピング（トンネル内）へのメッセージの挿入。
- ・周辺状況（歴史や食べ物の情報を挿入）を盛り込んだガイドブックの作成。
- ・一過性（サミットやイベント開催時）で終わらず継続的に情報発信。
- ・地域（地域の人々、地域間）がつながるような取り組み

パネルディスカッションはLIVE配信され、多くのファンや人々が視聴した。

今回参加された鉄道系 YouTuber（西園寺氏、ZAKI 氏）のお二人は、かなりの有名人でその人気の凄さには驚かされた！ 過去の参加者はサミット関係者が主であったが、この度の特に交流会では、参加された団体以外の YouTuber ファンの女性や若者が多く参加されており、これまでのサミットではない現象であった。YouTuber からの情報発信は良い面、悪い面あるかもしれないが、上手く利用できればと感じた。

《残念な点》

サミットでは参加された各団体を紹介する展示場（物販もあり）が設けられたが、展示場はサミット本会場とは別階にあり、会場入り口までの動線からも外れた人目につかない場所であった。また、サミット会場では展示場があることさえもアナウンスがなかった！ そのため、展示場は閑古鳥状態だったようだ。主催者側にはもう少し配慮があつても良かったのでは と残念な気持ちになった。



写真 3.1.5 展示場

【第6回開催地への引継ぎ】

次回の開催地は、新潟県新潟市秋葉区（旧新津市）で、JR 東日本の「信越本線」、「磐越西線」、「羽越本線」の3路線が乗り入れており、「鉄道の街」と呼ばれている。未成線や廃線ではないが、本サミットの宣言（図 3.3.1）にあったように、鉄道資源を地域のお宝として色々な活動で地域貢献に寄与しているということで決まったようだ。第1回サミットの開催主旨からは少し変わってはきたが、鉄道全般に広げていくという思いであろうか。

なお、開催時期は令和8年度が予定されている。

2日目：エクスカーション（8:00～14:00）・・・下記の2箇所で体験会（別行動）

①とことこトレイン乗車体験

錦川清流線乗車、きらら夢トンネル、岩日北線記念公園を遊覧



写真 3.1.6 錦川清流線



写真 3.1.7 とことこトレイン



写真 3.1.8 トンネル内

②岩日北線六日市トンネル探検

建設中断した六日市トンネル（4700m）を探検

3.2 今福線：遺構冊子制作の現地取材

今福線の遺構冊子制作のため、ライターのやまもと氏、五庵氏、フォトグラファーの中野氏と一緒に現地取材を行い、今福線の歴史や遺構の建設、構造等について説明を行った。

調査日：令和7年12月8日（月）

参加者：河野、佐々木孝、岸根、和田（以上、本分科会）、大谷（今福線ガイドの会）

やまもと、五庵（以上、ライター）、中野（フォトグラファー）（合計8名）

内容：マップ（本分科会作）、遺構の構造物リストと台割（やまもと氏作）を基に、下府駅から丸原地区までの主な遺構の現状確認や案内を行った。

また、下記の橋梁について確認を行った。

- ・今福橋りょう（新線）の構造形式について確認を行った（写真3.2.2）。
- ・今福橋りょう（新線）横に設置されている橋梁（床版橋）や護岸について確認を行った（写真3.2.3）。



写真3.2.1 現地取材状況



写真3.2.2 下今福橋りょう



写真3.2.3 今福橋りょう横の橋梁

下今福橋りょう（昭和45年3月31日竣工：橋銘板より）は、橋長10.35mのコンクリート橋である。

調査当初は、桁下に鋼板が見られたことより鋼板接着による補強が施されていると思っていた（参考文献5に記載-P.115-）。しかし、本橋の設計荷重はKS-14（橋銘板より）のため、道路橋として使用するにあたり現状に変状や損傷等がなければ、特に補強をする必要はない（KS-14>車両荷重）。

その後、「鉄道構造物探見」にてRC桁の種類（図3.2.1）を確認したところ、鉄筋の代わりにI形鋼やH形鋼をコンクリートの中に埋め込んだ桁があり、桁高を低くすることができるため、支間10m～20m程度で多用されたことが分かった。初期のものは、I形鋼

が使用されていたが、昭和30年代後半にH形鋼が普及してからはH形鋼埋込桁となっており、本橋の形式もH形鋼埋込桁と推測される。鋼材の一部がコンクリートの外部に露出する場合は、その部分を塗装する必要がある。本橋の場合もH形鋼の下フランジが露出しているため、塗装がされていたと思われる。現在は塗膜が剥離し点錆が見られ、防食機能の劣化が進行しているものの断面減少のような重大な損傷は見られない。建設後55年経過しており、鉄道として使用されることもなかったため塗装塗り替え等の維持管理もなかったと思われるが、健全性は確保されていると推測される。幸い架橋位置の環境は直接水

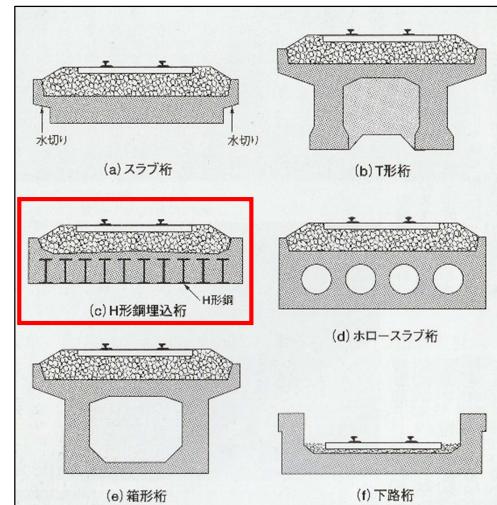


図3.2.1 RC桁の種類

出典先：鉄道構造物探見-p.161-より

参考文献4

が掛かるような状況ではないため、腐食の進行も速くはないと思われるが、定期的に観察をしていく必要がある。

今福橋りょう（新線）横に設置されている橋梁は、橋長約7mのコンクリート床版橋である。橋台は護岸兼用の構造で橋梁前後の護岸も石積で構築されており、旧線の遺構と推測される。改めて現地調査を行い構造等の確認を行いたいと思う。

【遺構冊子制作にあたっての観点】

【I. 冊子の目的、対象とする読者像】

①冊子を通じて伝えたいこと

戦前、戦後と浜田広島間を結ぶ鉄道建設を地域の人々は望んでいた。戦前と戦後の2度にわたり計画、着工されたが、時の国内事情（戦前は日中戦争、戦後は政府の財政窮迫と国鉄の赤字増大に伴う国鉄再建法）によりどちらも建設が中止となり、今福線は未成線となった。そして戦前、戦後に建設された橋梁やトンネルは、現在も遺構として現地に残っている。そのような歴史があったことを一般の人たち、とりわけ地元の人に知ってもらいたい。また、これからも遺構（地域のお宝）として残していきたい。

②どんな方々に読んでもらいたいか

地元、今福線沿線の地域の方、観光ツアーや個人で見学に来られた方、小学生低学年の子供達にも、読んで分かるような（分かり易い）内容とする。

専門用語や技術的文章は、なるべく分かり易い表現とする（的外れでない範疇で）。

しかし、鉄道・土木技術としての専門用語や単語を知ってもらうことで、遺構に愛着を持ってもらえるのではと思うので、注釈や図解等により説明したい。

③記載内容（事項）

- ・設置箇所
- ・建設年
- ・構造形式
- ・概要や特徴、説明文

【II. 構造物リスト】

新旧線の構造物リスト一覧を表3.2.1に示す。

表3.2.1 構造物リスト一覧表

工種	新旧線	種別・地区	番号	名称	備考	その他	工種	新旧線	種別・地区	番号	名称	備考	その他
トンネル	旧線	2号型	1	上府第一		立入禁止	橋梁	旧線	コンクリートアーチ (無筋コンクリート)	22	1連		
			2	上府第二		立入禁止				23	3連		立入禁止
			3	有福第一						24	4連①	選択土木遺産銘板	
			4	有福第二						25	4連②おろち泣き		市道利用
			5	有福第三						26	4連③		立入禁止
			6	有福第四						27	4連④		立入禁止
			7	今福第一						28	5連		県道利用
			8	今福第三		立入禁止				29	①天神	上部工戦後架替	市道利用
			9	今福第四						30	②恩地	上部工戦後架替	市道利用
			10	今福第五	JR西日本にて利用 山陽新幹線地震探知用	立入禁止				31	③	上府第二トンネル手前	
	新線	佐野～今福地区 2号型	11	今福第六		立入禁止				32	④	ソフ谷川渡河橋(下府橋梁同形式)	
			12	下長屋	1633mと最長、直線	立入禁止				33	⑤美田川		市道利用
			13	丸原		立入禁止				34	⑥	今福第六トンネル先	
			14	御神本		立入禁止				35	10基	矩形、円形、河川内鉄筋	
橋梁	新線	佐野地区 コンクリート PCI	15	第一下府川			駅	旧線	新旧線	36	下府		
			16	第二下府川						37	上府	上府自治公民館	
			17	H形鋼埋め込み	下今福橋梁					38	有福	宇野分団消防ポンプ車庫付近	
			18	コンクリート RCT	今福橋梁					39	佐野	みのり保育園	
			19	丸原地区 コンクリート	白角					40	今福	JAG城支所	
			20		寺廻り		盛土	旧線	切土	41	光明寺先の盛土	盛土勾配は実験にて検証	
			21		御神本					42	温石岩盤	泥質片岩	
										43	新旧交差部	日本で唯一	

※遺構冊子制作のスケジュールは、下記を予定している。

2月上旬までにテキスト原稿作成→2月末までにデザイン作成→3月中に印刷製本、納品

3.3 旧三江線：JR 九州への現地視察

宇都井高架橋の選奨土木遺産認定に先駆け、宇都井高架橋と同じ特殊ジョイントを有する壁式ラーメン構造の JR 九州篠栗線の壁式高架橋群 6 橋と、出羽川橋りょうと同構造で、我が国最初の PC ポステン下路桁橋である JR 鹿児島本線石堂川橋の撤去跡や建設時のルートと残された構造物を視察した。

調査日：令和 7 年 6 月 27 日（金）～29 日（日）

参加者：酒井、永田、岸根、辰巳、楳野、和田（以上、本分科会）、石田（島根県技術士会）、樋口先生（合計 8 名）

内容：6 月 27 日 篠栗線（篠栗～桂川間）の経路や駐車位置等の確認（事前調査）

6 月 28 日 篠栗線の壁式高架橋りょう群 6 橋（下記）の状況を視察

- ・第 2 多々良橋りょう ($L=374.18m$) • 鳴淵橋りょう ($L=90.00m$)
- ・山手橋りょう ($L=150.00m$) • 第 3 多々良橋りょう
- ・第 4 多々良橋りょう ($L=130.00m$) • 黒石橋りょう ($L=168.00m$)

6 月 29 日 鹿児島本線（石堂川橋撤去跡）の視察

篠栗線の特殊ジョイントを有する壁式ラーメンの詳細な内容や構造、特徴等については、令和 6 年度研究報告の酒井氏と岸根氏の論文（参考文献 6）をご覧いただきたい。

特殊なジョイントは、壁式橋脚の上部が縦に 3 分割されており（図 3.3.1 左）、橋脚 A、A'（外側の二つ）に起点側のブロック桁が、橋脚 B（内側の一つ）に終点側のブロック桁が接続されている（図 3.3.1 右）。このジョイント方式では、温度変化や乾燥収縮による上部構造の橋軸方向の伸縮は、橋脚壁面の弾性変形により緩和、吸収される構造となっている。

ジョイントを有する橋脚の外観（外形寸法）は、他のジョイントのない橋脚とほとんど変わらない。

篠栗線の橋脚には、ひび割れ補修や断面修復等の補修工事はされているが、RC コンクリート巻き立てやスパイラル筋巻き、炭素繊維シート巻きなどによる耐震補強は見られない。ただし、ある程度耐震性能は有していると思われる所以、耐震補強で剛性が変化することで、かえって荷重分担や基礎構造へ負の影響が出る可能性もあるため、あえて補強はしていないかもしれない。

本形式による高架橋は普通の鉄筋コンクリートラーメン構造であるため、施工上特殊な問題はほとんどないが、高い施工精度が求められたようだ。特に鉄筋の位置や橋脚の垂直性に留意する必要があった。その理由として、参考文献 3 によると、壁厚 40 cm の壁柱では厚さが 1 cm 变化すると設計応力が 5% 増減し、鉄筋の位置及び柱の垂直性の施工誤差も同様に影響を及ぼすためであった。

特殊ジョイントを有する壁式ラーメン高架橋は、全国的に見て JR 篠栗線と旧三江線の宇都井高架橋しかないと思われる。個人的には本形式による橋梁が全国的に普及しなかった理由の一つとして、施工管理の難しさ（施工精度の問題）があったのではと推察している。

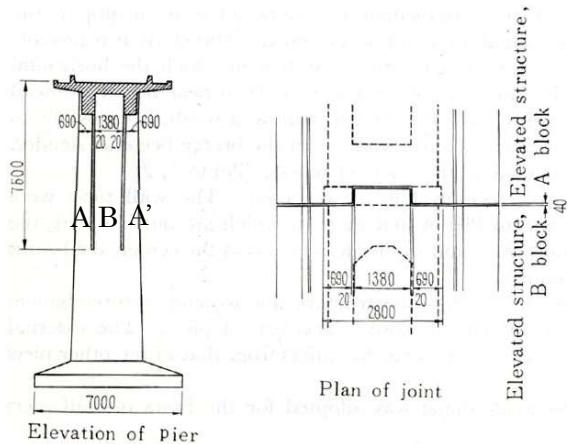


図 3.3.1 特殊ジョイントとその橋脚
参考文献 7 より



写真 3.3.1 第3多々良橋りょう
スリットは開口



写真 3.3.2 フーチング天端まで
延びるスリット



写真 3.3.3 山手橋りょう

3.4 旧三江線：「宇都井高架橋」の選奨土木遺産認定

INAKA イルミの開催に合わせて、宇都井高架橋の選奨土木遺産認定証授与式が邑南町の大屋町長、土木学会中国支部浅田支部長代理、邑南町議会漆谷議長の出席のもと行われた。認定理由は樋口先生より、本形式が特殊なジョイントを有する鉄筋コンクリート壁式ラーメン高架橋で、旧宇都井駅は開業当時、日本一の高さを誇る高架駅であったとの解説があった。

開催日：令和7年11月22日（土）

開催場所：邑南町三江線鉄道公園宇都井駅公園

参加者：酒井、佐々木孝、岸根、辰巳、渡辺、和田（以上、本分科会）、樋口先生

日本技術士会中国本部の現地視察会参加者 14名（合計 21名）

内容：授与式の準備と参加、来訪者への旧三江線の歴史や宇都井高架橋の構造説明



写真 3.4.1 表彰状況



写真 3.4.2 酒井氏による説明



写真 3.4.3 岸根氏による説明



写真 3.4.4 島根県技術士会ブース

会場では、島根県技術士会のブースを設置し、日本技術士会中国本部の現地視察会からの参加者や来訪者の方々へ、旧三江線の歴史や建設の説明を岸根氏より、宇都井高架橋の特殊ジョイント構造（上下部工の挙動）については、酒井氏より模型（酒井氏製作）を使った説明を行った。特殊な構造形式にも関わらず、シンプルな模型ではあるが動きも分かり易いため（可視化）、技術者だけでなく一般の方々（特に子ども達）にも良く理解ができたのではと思う。

3.5 今福線、旧三江線：日本技術士会中国本部主催現地視察会への参加

「人口減少社会と地域再生」をテーマに、日本技術士会中国本部建設部会主催による“「関係人口」で読み解く島根の地域再生視察会”の開催があり、「関係人口」研究の第一人者である島根県立大学の田中輝美准教授が拠点として運営に携わる「美又共存同榮ハウス」において、施設案内と関係人口創出の具体的な取り組みに関する講演や意見交換会が行われた。そ

れに合わせて、本分科会では今福線と旧三江線の遺構や活動について説明を行った。

当日は、福田中国本部長、溝山建設部会長をはじめ中国本部と島根県技術士会から参加があった。

開催日：令和7年11月22日（土）

開催場所：浜田市佐野町～宇津井町、邑南町三江線鉄道公園宇都井駅公園

参加者：酒井、岸根、渡辺、和田（以上、本分科会）、

篠田、武田（以上、島根県技術士会）

日本技術士会中国本部の現地視察会参加者12名（合計18名）

- 内容：
- ・今福線では、県道佐野波子停車場線沿いの旧線の遺構3箇所{4連アーチ橋（選奨土木遺産銘板）、5連アーチ橋、橋脚群}について、構造形式や特徴について和田が説明を行った。参加者が特に興味を持ったのは5連アーチ橋で、県道改良に伴い遺構を撤去せず使用することで拡幅工事が行われたこと、遺構と拡幅側との接続構造、アーチ径間が均等でないことなどが話題に上がった。
 - ・旧三江線では、全線の概要や歴史、宇都井高架橋・駅の視察、宇都井高架橋の構造では特殊ジョイントを有する橋脚と上部工の挙動について模型を使った説明を酒井氏と岸根氏が行った。

また、時間のない中、選奨土木遺産認定証の授与式にも参加があった。

3.6 今福線を活かす連絡協議会のホームページの概要

ホームページは、今福線の鉄道遺構を見に来られる観光客を対象に観光客が「見たい、知りたい」情報を載せることを優先として作成する。ホームページの作成と運営は「Jimdo」（ホームページビルダーの無料版）を利用する。

ホームページの概要を下記に示す。

(1) ホームページ名称：“幻の広浜鉄道”今福線

<https://imafuku-line.jimdosite.com/>

(2) 構成する基本ページ（無料版のため5ページが上限）

①ホーム：トップページ（入口）（図3.6.1）

②今福線とは：概要、歴史、建設経緯、遺構の現状と特徴

③団体概要：設立経緯、構成団体、活動内容・イベント・

行事日程

④見どころ：周辺状況含め遺構の写真や3D

⑤沿線の観光情報：沿線の飲食店、レジャー・文化施設、

温泉、お土産・買い物（リンクを貼付）



図3.6.1 ホームページのトップページ

ブログやSNSなど、ほかの機能とリンクさせることでページ不足を補うようにしている。

現在は、各団体の活動写真の収集やリンク先である施設紹介のお店等への掲載許可を行っており、ある程度目途が立てば公開する予定である。

4. 今後の活動

4.1 今福線の活動

(1) “謎”的解明、技術資料の収集・整理

これまでの調査研究で発見したトンネルの内空断面や橋梁形式に関する“謎”的解明をは

じめ、遺構の技術的特徴の整理を進めて行く。また、今福橋りょう（新線）横に存する床版橋は改めて調査し新旧線の判別を行いたい。

(2) マップの更新（写真やコメント）

令和8年度のマップ更新に向けて、遺構や周辺状況を確認していきたい。

(3) 第6回全国鉄道資源活性化サミット in 新潟（仮称）への参加

第6回のサミットは令和8年度に開催が予定されている。開催場所が初めて東日本となるが、これまで通りサミットへ参加し参加団体とネットワークを広げていきたい。

4.2 旧三江線の活動

(1) 新たな遺構の資料収集や技術検証と撤去される遺構の観察

昨年に続き今年度、宇都井高架橋が選奨土木遺産に認定され、旧三江線には技術的価値の高い遺構があることを再確認するとともに、まだ魅力的な遺構が数多く残っている。撤去される前に図鑑の第2弾を目指して調査や資料収集、技術的特徴等を整理していきたい。

4.3 関係機関・団体との連携

(1) 浜田市、今福線を活かす連絡協議会

今年度中には、連絡協議会のホームページを開設予定である。開設後は各団体の活動状況や行事予定等の情報発信を行うことで、多くの来訪者に来てもらいたい。

(2) 土木学会（岡山大学樋口先生）や松江工業高等専門学校（大屋先生）

これまでと同様に、遺構の魅力発見や保存に向けた歴史・技術の検証、公園施設（トンネル・橋梁・駅）の点検・維持管理方法（3次元化）等について、助言や連携をお願いしたい。

(3) NPO 法人江の川鐵道、邑南町、川本町観光協会、川本町

「旧三江線『陰陽100年の夢』プロジェクト調査及び実現プラン策定事業（島根県邑南町）」のエンジニアツーリズムやコンクリートのCO₂固定化等の調査研究への支援や協力を買う。

5. おわりに

今年度も、今福線及び旧三江線とも地域や関係機関の行事への参加や連携した活動に取り組んだ1年であり、今後も新たな取り組みや様々な活動が予想される。

これからも本分科会の活動が地域や関係機関と連携し、次世代へ遺構と活動を継承することで、地域の活性化に貢献できればと考えている。

謝 辞

樋口先生のお力添えにより宇都井高架橋の選奨土木遺産の認定や土木学会中国支部の調査研究活動助成制度を活用させていただきました。ここに深く謝意を表します。

＜参考文献＞

- 1) 野澤太三 森重龍馬：土木構造物の問題点と対策 吉井書店、pp. 33-38、1987
- 2) 内田聰吉 森重龍馬 辻秀紀：鉄道土木 壁柱式高架橋 上)、pp. 33-38、1967
- 3) 内田聰吉 森重龍馬 辻秀紀：鉄道土木 壁柱式高架橋 下)、pp. 107-110、1967
- 4) 小野田滋：鉄道構造物探見 トンネル、橋梁の見方・調べ方、JTB、pp. 161, 187, 188、2003
- 5) 和田浩：平成22年度研究報告 島根県技術士会、pp. 115、2010
- 6) 岸根真志 酒井雄壯：令和6年度研究報告 島根県技術士会、pp. 17-24、pp. 25-32、2024
- 7) 樋口輝久 岸根真志 酒井雄壯 和田浩：

令和7年度土木学会中国支部研究発表会概要集、2025